

# 第二回報告書

幅尻裕 | Nagihiro Haba

University of California, Los Angeles

Department of Chemistry and Biochemistry

Chemistry Ph.D.

2025 年 12 月

## 1. はじめに

2025 年度 FOS 奨学生の幅です。9 月中旬に渡米してから約 3 か月が経過しました。渡米直後の 2 週間ほどは環境の変化もあり体調が安定しない日もありましたが、現在はすっかり回復し、元気に過ごしております。先週、最初の学期が正式に終了し、ようやく初めてのまとまった休みを迎えて一安心しているところです。

本報告書では、初学期を通しての UCLA での学校生活および私生活についてご報告いたします。

## 2. 学校生活

9 月の第 3 週頃から大学のオリエンテーションが始まり、授業開始に先立って TA 向けの Teaching Class が行われました。その後、最終週頃から徐々に通常授業が開始され、私の場合は事前に提示されていた理想カリキュラムに沿って科目を選択しました。

具体的には、専門の選択科目として有機金属化学 (Organometallics) と電気化学 (Electrochemistry) を履修し、必修科目として Teaching Class、科学倫理 (Ethics)、セミナーを受講しました。必修科目はいずれも週 1 回の授業で課題も比較的少なく、負担は軽めでした。一方で、有機金属化学と電気化学は週 2 回・各 2 時間の授業に加え、課題も豊富で、なかなか歯ごたえのある内容でした。

特に有機金属化学は学部時代に深く学んでいなかった分野であり、内容を英語で一から理解するのに苦労しました。毎週の課題に加え、中間試験、論文紹介プレゼンテーション、期末試験がすべて 3 か月の間に詰め込まれており、かなりハードなスケジュールでした。

電気化学では、3 週間ごとに 6 回分の授業内容をまとめた課題が出され、提出までに 3 日ほどかけて取り組んでいました。期末試験自体は持ち帰り形式で比較的負担は少な

かったのですが、既存製品を用いた検証実験のプロポーザルを 500 語以上で作成する必要があり、「ああ、自分はいま本当に大学院生をやっているなあ」と実感しました。研究に関しては、現在はラボローテーション期間のため大きな負荷はなく、空き時間を使って希望研究室の先輩方の研究を少しずつ手伝っています。まだ自身の研究テーマが本格始動していないため具体的な成果はご報告できませんが、成果が出次第改めてご紹介できればと思っています。

研究室では、「前の研究室でこんなことをやっていた」「この装置があるなら、こんな実験も面白そうじゃない？」といった話題を気軽に投げかけると、「いいね、試してみたら？」と返ってきたり、自然と議論が始まったりします。自身の研究アイデアを広げ、深めるうえで非常に良い環境だと感じています。

なお、この冬から正式なラボ配属が決定する予定で、現在書類へのサインを集めている最中です。あとは Department の承認が無事に下りることを、静かに、しかし強く祈っています。

### 3. 私生活

アメリカ、特にロサンゼルスは物価が高いというイメージがありますが、実際に生活してみると「家賃が高い」という一点を除けば、食費はそれほど高くありません（自炊とファストフードに限る）。普段は鶏ささみ、鶏もも、鶏むね、魚を中心に、玉ねぎ、キャベツ、白菜などを使って自炊しています。時々お菓子も購入しますが、食費は週 50～100 ドル程度に収まる印象です。

大学からバスで 30 分以内の場所には Sawtelle という日本食店街があり、丸亀製麺や CoCo 壺、ラーメン店などが並んでいます。12 月が誕生日だったため、近くの Nijiya Market でこんにゃく、牛すじ？（内臓系）、タコ、揚げ物などを購入し、おでんを作ってささやかな贅沢をしました。4～5 人前で約 60 ドルだったので、意外と良心的だと感じました。



ある日、甘いものが食べたくなりアイスクリームコーナーを眺めていたところ、通常サイズが4~6ドルする中、なぜか1ガロン（3.79L）のアイスクリームが6ドルで売られているのを発見しました。結果として、我が家に巨大なアイスクリームが爆誕しました。現在、太らないようにどう消費するか悩んでいます。LAに来る予定の方、ぜひ食べに来てください。

休日は自宅で休んだり、ゲームをしたり、研究室のメンバーとバレーボールをしたり、日本人 PhD 学生と飲みに行ったりして過ごしています。サンタモニカ近くのビーチには無料で使えるバレーネットが設置されており、久しぶりにビーチバレーでしっかり体を動かしました。



また、イベントも定期的であり、10月には近隣でオクトーバーフェストが開催され、UCLA の日本人 PhD の先輩方と一緒にビールを楽しみました。11月にはLA在住日本人約100人規模のパーティーにも参加し、パイロット、デザイナー、モデルなど、さまざまな分野で活躍されている方々と交流でき、大変刺激的な経験となりました。



#### 4. 最後に

今学期は、生活面・学業面ともにまだ慣れないことが多く、研究も正式に始まっていないため、主に授業と私生活を中心とした報告となりました。LA では多くの日本人が各分野で活躍しており、新しい出会いが多く、とても刺激的な環境だと感じています。

生活費も想像していたほど高くはなく、大学周辺の治安も比較的良好で、温暖な気候も相まって非常に暮らしやすいです。12月でも昼間は 20°C 近くになる日があり、季節感が少し迷子になります。

来学期は材料系の授業が忙しくなると聞いていますが、それを乗り越えれば少し余裕が出てくるとのことなので、研究成果をどこまで出せるかは未知数ながら、自分なりに着実に取り組んでいきたいと思います。引き続き、温かく見守っていただけますと幸いです。